

| | | | |
|--|---|------|----|
| 授業科目名 | 持続可能な地域開発 | 単位数 | 2 |
| 担当教員名 | 坪内俊憲 | 担当形態 | 単独 |
| 実務内容 | 主に開発途上国地域において自然保全、野生生物保全管理分野の国際協力プロジェクトに関わる専門家、およびコンサルタント業務に従事してきた現場型教員として、星槎大学大学院においては環境教育特論他、星槎大学においては共生のための地球行動論、問題解決のための国際協働論、生物多様性と資源利用などの科目を担当。学生を始め広く参加者を募りモンゴル、ボルネオでのスタディーツアーを共生実習として企画・実施している。 | | |
| <p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という星槎大学の三つの約束のもと、自ら生活を営む地域において、どのように考え、どのように行動していくことで、持続可能な地域開発が達成できるか考える基盤を獲得し、以下のことを実行できる資質能力を獲得することを目指します。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p> | | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 地域開発における持続性とはどのように達成できるか理解する。</p> <p>(2) 地域開発が持続性を失って行く原因を事例から学ぶ。</p> <p>(3) 地域開発が持続可能になっていくための要件を事例から学ぶ。</p> <p>(4) 具体的な持続可能な地域開発を計画し、実践力を養う。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>持続可能な地域開発とは、地域の人たちが相互に支え合い、助け合って生活を営むことが継続できる地域社会を創造することと捉えることができる。日本では、大企業によって資源、利益が独占され、政府の手続き優先、地域を顧みない政策が継続された結果、地方は衰退し、地域は持続可能とは言い難い状態に追い込まれてきた。このような状態にもかかわらず、若者たちの地方創生、持続可能な地域開発成功事例がわずかであるが注目され始めている。</p> <p>持続可能な地域開発実践家の活動小説、報告から持続可能な地域開発とは何か、成功事例、失敗事例</p> | | | |

を学び、不可欠な考え方、人材、お金、資源とはどのようなものか学習する。実践事例の理解の上に立ち、自ら生活を営む地域における具体的な持続可能な地域開発を計画し、実践力を養うことを目指すものである。

授業計画

- 第1回： 衰退する地域の現実について学習する。
- 第2回： 地域開発のリーダーに必要なことを理解する。
- 第3回： 地域開発に利用できる資源とは何か学ぶ。
- 第4回： 地域開発に関わる不安、批判はつきものであることを知る。
- 第5回： 自治体、政府主導の地域開発が持続可能でないことを理解する。
- 第6回： 地域開発に失敗はつきものであることを学習する。
- 第7回： 地域開発に必要な持続可能性についての考え方を学習する。
- 第8回： 地域開発の持続性に必要な仲間について考察する。
- 第9回： 地域開発が持続性を獲得するには常に新しいことに挑戦する必要があることを理解する。
- 第10回： 地域開発の失敗事例を知り、なぜ失敗したかを学習する。
- 第11回： 政府、自治体の地域開発、地方再生、地方創生事業、地域おこし協力隊について調査する。
- 第12回： 新しいお金の流れについて学習する。
- 第13回： アメリカ、ヨーロッパにおける持続可能な地域開発事例を学習する。
- 第14回： 地域開発の持続性に必要な人、物、お金、考えに関わるキーワードを書き出し、自らの考え方を構築してみる。
- 第15回： 自らの生活を営む地域の具体的な持続可能な地域開発を計画してみる。

定期試験

学修内容

第1回～第9回までの学習内容について、テキスト全章、脚注、17コラムを自己学習します。テキスト学習で理解したことを基盤として、第10回～第13回までの学習内容について、参考図書、インターネットに公開されている資料、情報を用いて自己学習し、レポートをまとめる。第14回、第15回学習として、上記学習による理解を基盤として、自ら生活を営む地域における持続可能な地域開発を考え、具体的計画を策定してみる。

科目修得試験：レポートについて添削指導を受け、合格した上で科目修得試験レポート方式を提出する。

テキスト

木下斎著、「地元がヤバい・・・と思ったら読む凡人のための地域再生入門」、ダイヤモンド社、ISBN 978-4-478-10390-6

参考書・参考資料等

- 木下齊著、「地方創生大全」東洋経済新聞社、ISBN 978-4-492-21225-7
- 藤井良広著、「金融NPO—新しいお金の流れをつくる」、岩波書店 ISBN 978-4-00-431084-6
- どこからどこへ研究会著、「地球買い物白書」、コモンズ、ISBN 4-906640-66-4

資料 (URL)

- あのまち、このまち失敗事例 <https://gumroad.com/l/uRYxC>
- 地域おこし協力隊 <https://www.iju-join.jp/chiikiokoshi/index.html>
- 地方再生事業 <https://www.mhlw.go.jp/general/seido/josei/kyufukin/b02-1.html>
- 地方創生 SDGs 金融の官民連携のハートナーシップによる自律的好循環形成に向けて https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/kankyo/kaigi/dai20/sdgs_hyoka20_sankoll-1.pdf
- アメリカメインストリートセンター <https://www.mainstreet.org/home>
- Association of Town and City Management <https://www.atcm.org>

評価

レポート評価 (50%)、科目修得試験 (50%) を総合して評価する。